



静岡県議会議長賞

バディ好きだよ

四年 滝本 桐士

ぼくのおじいちゃんの家のお犬、バディをしようかいます。ラブラドルレトリバーという犬種です。とってもかわいいですよ。

ぼくは、バディに初めて会った時をもうおぼえています。ずっと仲良しだったらしいです。ぼくが小さい時は、バディの上にまたがったり、耳を引っばったりしてしまっていたのですが、おこたりにしないで、ぼくの顔をなめてくれる、やさしいバディです。

楽しい思い出をしようかいます。一つ目は、いっしょに色々な場所をさんぽしたこと。ぼくがリードを持って、たくさん歩きました。時どきリードをバディに引っばられて転んだ事もあります。それも楽しくて、かわいいのでそんな事なんて気にしません。

公園には何度も行きました。さんぽの途中で公園にすることが、ぼくもバディも大好きでした。公園では、「レトリブ」をします。ボールをどれだけ遠くに投げても、とっても楽しそうに引っばをふって、取ってきます。ぼくもとってもうれしかったです。

二つ目は、少しはすかしいのですが、おじいちゃんの家トイレが暗くてこわかった。二つ目についてきて!!」と言って、いっしょにきてもらって、トイレの前で待ってもらいました。ぼくよりもゆうかなな犬『バディ』です。今ではぼくが成長して、一人でトイレに行けるようになりました。

けれども、バディとはもう遊べなくなりました。バディは、ぼくが生まれるずっと前からいました。16才です。犬はぼくたち人間よりも年をとるスピードが早いです。年をとるにつれて、バディに難病がおそいかりました。目つぶつんができたり、毛がとれてしまったり、体のあちこちにいたい場所があるように見えました。一日の中で眠る時間が長くなってきました。病氣と戦っていたのでつかれていたのかもしれない。トイレに行く時は、しっかり立って行っていました。ぼくや、みんながささえてあげました。

ぼくにも、もうお別れが近づいていることがわかっていました。学校の帰りにおじいちゃんの家に行く事にしました。バディはもうすわれませんでした。水はストローで飲んでいました。ずっとところがついていました。それなのに、ぼくが来たらうれしそうに首を動かして、ぼくを見てくれました。バディがほえました。

これはぼくが聞いた、最後の鳴き声になってしまいました。ぼくは、家に帰る時に、「これからもがんばろう。いっしょに」と言って、手をにぎってあげました。会えなくなつてから、もう一カ月がたちます。バディが死んでしまったのは世界一悲しい事です。バディはずっと家族です。元気でいてほしいし、バディが見守ってくれているから、これからもがんばります。またいつかバディと会って遊びたいな。